

公益社団法人 日本コンクリート工学会 東北支部
平成 25 年度通常総会議事及び行事次第

期日 : 平成 25 年 5 月 14 日 (火)

場所 : 江陽グランドホテル

I 総会 (14:00~14:40)

1. 開会宣言
2. 定足数の確認
3. 支部長挨拶
4. 議長選出
5. 議事録署名人の選任
6. 議事
 - 第1号議案 平成24年度事業報告(案)及び収支決算報告(案)について
 - 第2号議案 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - 第3号議案 役員交代について
7. その他
8. 閉会

II 平成 24 年度日本コンクリート工学協会東北支部表彰 (14:40~15:50)

(1) 選考結果報告

(2) 表彰

(3) 講演

休憩 15:50~16:00

III 東北支部学術合同調査委員会第5部門報告会 (16:00~17:00)

IV 懇親会 (17:00~19:00)

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算報告

(自：平成24年4月1日 至：平成25年3月31日)

1. 会務運営

(1) 総会の開催

- ・平成24年 5月 8日 (火) 15:00～17:20 於：仙台国際ホテル

(2) 幹事会の開催

- ・平成24年 4月 12日 (木) 17:00～18:30 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成24年 9月 20日 (木) 16:00～17:00 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成24年 12月 5日 (木) 13:30～15:00 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成25年 3月 8日 (金) 13:00～15:00 於：(株) 復建技術コンサルタント

(3) 役員会の開催

- ・平成24年 12月 5日 (木) 15:10～16:40 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成25年 3月 8日 (火) 15:10～16:40 於：(株) 復建技術コンサルタント

(4) 研究委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催。

(5) 表彰委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催

(6) 研修委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催

(7) 講習会運営委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催

(8) ホームページ運用委員会

- ・委員会は、随時電子会議で開催

2. 委員会活動

(1) 研究委員会

会告およびホームページにおいて、二種専門研究委員会（一般研究課題）および三種専門研究委員会（萌芽的研究課題）を公募していたが、平成24年度は新規の研究応募が無かった。

1) 二種専門研究委員会「コンクリート構造物のLCC評価研究委員会」

平成20年10月28日から平成24年3月31日まで行われた委員会活動の報告をまとめ、コンクリート工学2012年8月号に委員会報告を行った。

また本委員会で作成した報告書に基づいた講習会を東北6県で開催した。

各講習会の開催状況は以下の通りである。

仙台講習会

開催日：平成24年6月28日(木) 場所：宮城県庁講堂 受講者：269名

特別講演：「インフラの経済的長寿命化に向けた包括的予防保全統合システム構築の取組み」

岸 利治（東京大学）

青森講習会

開催日：平成24年9月18日(火) 場所：アウガ5階 AV 多機能ホール(青森市) 受講者：83名

特別講演：「材料劣化が生じるコンクリート構造物の維持管理優先度」

宮里心一（金沢工業大学）

山形（酒田）講習会

開催日：平成24年9月24日(月) 場所：酒田建設会館 受講者：53名

特別講演：「新潟県沿岸部において塩害被害を受けた橋梁のライフサイクルコストの実態調査」

田中 泰司（長岡技術科学大学）

岩手（盛岡）講習会

開催日：平成24年10月23日(火) 場所：アイーナいわて県民情報交流センター 受講者：70名

特別講演：「表層コンクリートの品質と構造体コンクリートの品質評価」

湯浅 昇（日本大学）

秋田講習会

開催日：平成24年11月14日(水) 場所：カレッジプラザ講堂(秋田市) 受講者：50名

特別講演：「劣化したコンクリート構造物の力学性能と優先度評価への利用について」

山本 貴士（京都大学）

福島（郡山）講習会

開催日：平成24年12月7日(金) 場所：日本大学工学部50周年記念館(郡山市) 受講者：104名

特別講演：「LCC最小化に向けた合理的な材料配合設計と環境評価への取組み」

佐伯 竜彦（新潟大学）

以上6会場合計の参加者は629名であった。

(2) 表彰委員会

1). 支部賞募集および応募

会誌「コンクリート工学」1月号の会告及び支部ホームページを通して支部各賞の募集を行ったところ、論文賞6件、奨励賞3件、作品賞2件の応募があった。

・論文賞

- ① ひずみ硬化セメント複合材料の一軸引張試験用治具の開発に関する研究
- ② 双曲線を用いたコンクリートの乾燥収縮率の早期推定法に関する検討
- ③ 混合酸の作用によるセメント硬化体の劣化挙動の整理と劣化現象のモデル化に関する検討
- ④ 余震による地震入力を受ける場合の応答推定手法に関する検討
- ⑤ 鋼材ダンパーを設置した6層鉄筋コンクリート造ピロティ架設のサブストラクチャ擬似動的実験
- ⑥ 凍結融解作用を受けた復鉄筋のないRCはりのせん断耐力

・奨励賞

- ① 最密充填理論を用いた断熱軽量モルタルの材料設計手法に関する基礎的研究
- ② 鋼コンクリート接合部に生じた鋼材腐食量の推定に関する基礎的研究
- ③ 固有振動数の低下に着目したRC部材の地震時損傷評価に関する基礎的研究

・作品賞

- ① 金ヶ瀬さくら大橋上部工事
- ② 品質向上に配慮した配筋図に基づき製作した橋りょう
(JR東日本磐越東線夏井・小野新町間夏井谷津作橋りょう)

2). 審査結果

それぞれの応募について表彰委員会の委員個人での審査結果を参考に、平成25年3月8日に表彰委員会を開催し、慎重審議を行った。その結果、上記論文賞②の論文は、論文賞より技術賞が相応しいこと、その他は応募された各賞に相応しいことと判断した。さらにJCI東北支部の二種専門研究委員会である「コンクリート構造物のLCC評価研究委員会」の活動は東北地方のコンクリート構造物の長寿命化に資するところが大きく、特別賞に相応しいものと判断した。これらの審査結果を同日開催された幹事会及び役員会にて提案し、承認された。

3). 功労賞

功労賞については推薦がなく、今年度は対象者なしとした。

4). 表彰対象とその理由

【論文賞】①

題名 「ひずみ硬化セメント複合材料の一軸引張試験用治具の開発に関する研究」

応募者 菊田貴恒（東北大学大学院）

三橋博三（東北工業大学）

秋田 宏（東北工業大学 名誉教授）

選考理由

本論文は、ひずみ硬化セメント複合材料(SHCC)の一軸引張試験方法に関し、大断面試験体での引張性状評価方法を提案するとともに、試験を効率的に実施できる試験用治具を開発したものである。大断面試験体を用いることで断面内の繊維配向がより実構造物に近くなること、試験体を両端ピン支持にすることで二次曲げの影響を少なくできること等を明らかにした。これらの成果は、新しい構造材料であるSHCCを実構造物に適用していく上で重要な知見を供するものであり、コンクリート工学の発展に寄与するものである。

以上のことから、菊田貴恒氏ほか2名にJ C I東北支部論文賞を授与いたします。

【論文賞】②

題名 「混合酸の作用によるセメント硬化体の劣化挙動の整理と劣化現象のモデル化に関する検討」

応募者 宮本慎太郎（東北大学大学院）

皆川 浩（東北大学大学院）

久田 真（東北大学大学院）

選考理由

本論文は、塩酸、硫酸、硝酸がそれぞれ単独に作用した場合とそれらの混合酸が作用した場合について、セメント硬化体の質量減少率に及ぼす影響を実験的に検討したものである。その結果、単独の酸が作用したときの質量減少率には、生成されるカルシウム塩の溶解性が、混合酸の場合には硫酸の混合割合が影響すること等を明らかにした。さらにそのメカニズムを物理化学理論に基づき解明し、質量減少率を予測する基礎モデルを提案している。得られた成果は実構造物における酸劣化の予測、ひいては維持管理システムの構築に有用な知見を提供するものである。

以上のことから、宮本慎太郎氏ほか2名にJ C I東北支部論文賞を授与いたします。

【論文賞】③

題名 「余震による地震入力を受ける場合の応答推定手法に関する検討」

応募者 西田哲也（秋田県立大学）

兔澤圭亮（秋田県立大学）

寺本尚史（秋田県立大学）

小林 淳（秋田県立大学）

選考理由

本論文は、本震である程度の被害をうけた中高層RC建物が余震を受けた場合の応答性状について検討したものであり、同じ地震動であっても本震経験後の建物では1.2~1.4倍の応答があること等を明らかにした。日本では近い将来東南海地震等大地震が想定される中、余震も含めて建物の地震に対する挙動の精度良い推定が求められている。本研究の成果はこれまであまり検討されてこなかった余震に関する研究を進める上での重要なデータを提供しているものと思われる。

以上のことから、西田哲也氏ほか3名にJ C I東北支部論文賞を授与いたします。

【論文賞】④

題名 「鋼材ダンパーを設置した6層鉄筋コンクリート造ピロティ架構のサブストラクチャ擬似動の実験」

応募者 菅野秀人（秋田県立大学）

寺本尚史（秋田県立大学）

西田哲也（秋田県立大学）

小林 淳（秋田県立大学）

選考理由

本論文は、中規模RC建物を対象に制震ダンパーを取り付けたピロティ架構の地震応答性状について擬似動の実験を行い、ダンパーの効果を定量的に示すとともに瞬間入力エネルギーと最大応答変位との間に高い相関が認められること等を明らかにした。本研究の成果は、大地震による津波の被害を少なくするためにピロティ形式の提案がなされる中、この形式の地震対策に対して貴重な知見を提供するものと考えられる。

以上のことから、菅野秀人氏ほか3名にJCI東北支部論文賞を授与いたします。

【論文賞】⑤

題名 「凍結融解作用を受けた腹鉄筋のないRCはりのせん断耐力」

応募者 内藤英樹（東北大学大学院）

山洞晃一（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

古賀秀幸（株）オリエンタルコンサルタンツ）

鈴木基行（東北大学大学院）

選考理由

本論文は、凍害を受けたRC梁のせん断耐力低下を実験的に調べたものであり、凍害による損傷を受けた場合、健全な梁に対してせん断耐力が約半分に低下すること、せん断耐力は凍結融解作用によるコンクリートの引張強度の低下を考慮することでかなり正確に評価できること等を明らかにしている。凍害による材料劣化については数多くの研究があるものの構造物自体の耐久性に関する研究はこれまであまりなされていない。さらに本実験では大型供試体の凍結融解試験を実施しており、研究手法にも独創性・新規性が認められる。

以上のことから、内藤英樹氏ほか3名にJCI東北支部論文賞を授与いたします。

【技術賞】

題名 「双曲線を用いたコンクリートの乾燥収縮の早期判定法に関する検討」

応募者 袴田 豊（岩手県生コンクリート工業組合 中央技術センター）

小山田哲也（岩手大学）

高橋潤吉（花王生コン（株））

藤原祐介（岩手県生コンクリート工業組合 中央技術センター）

選考理由

本研究は、28日までの乾燥収縮試験値で材齢6ヶ月までの乾燥収縮量を推定する方法について、実際に工場から出荷されたコンクリートを用いて検討したものである。JASS5等で示されているある特定材齢での乾燥収縮量だけでなく、連続した材齢における乾燥収縮量を推定できるのが特徴である。使用したコンクリートは岩手県内生コン工場52社から出荷されたものであり、条件付きではあるものの数多くの骨材を用いていることから汎用的な推定方法となる可能性も認められる。

以上のことから、袴田 豊氏ほか3名に東北支部技術賞を授与いたします。

【奨励賞】①

題名 「最密充填理論を用いた断熱軽量モルタルの材料設計手法に関する基礎的研究」

応募者 権錫玟（東北大学 工学研究科）

選考理由

本研究はコンクリートの密度と強度という負の相関を、骨材の最密充填および高強度マトリックスを利用して実験的に両立させたものであり、圧縮強度 20Mpa、密度 1.0g/cm³ の材料開発に成功した。実際のコンクリートでは必ずしも最密充填を理論どおりに適用できるわけではないが、発想に新規性があり、今後の研究の進展により新しい断熱材料が開発される可能性も期待できる。

以上のことから、SUKMIN KWON 君に東北支部奨励賞を授与いたします。

【奨励賞】②

題名 「鋼コンクリート接合部に生じた鋼材腐食量の推定に関する基礎的研究」

応募者 柏 宏樹（東北大学大学院）

選考理由

本研究は、鋼コンクリート接合部の鋼材の腐食に関し小型加振器による振動実験を行ったものであり、鋼材の減衰常数やコンクリート部分の固有振動数の低下などにより鋼材腐食の状況を把握できる可能性のあることを示した。今後の研究を進めることで、比較的簡便な振動測定により鋼材腐食の点検法の開発につながることを期待できる。

以上のことから、柏 宏樹君に J C I 東北支部東北支部奨励賞を授与いたします。

【奨励賞】③

題名 「固有振動数の低下に着目した R C 部材の地震時損傷評価に関する基礎的研究」

応募者 長谷川 俊（東北大学大学院）

選考理由

本研究は、橋梁の地震時損傷の評価を目的として振動実験を行ったものであり、損傷程度が軽微なものであってもたわみ振動の固有振動数の低下程度により損傷評価が可能であることを示している。現段階で実用的な結論を導ける段階ではないが、今後の研究を進めることで高精度の点検技術の開発が見込めるものと思われる。

以上のことから、応募者である長谷川 俊君に J C I 東北支部東北支部奨励賞を授与いたします。

【作品賞】①

題名 「金ヶ瀬さくら大橋上部工事」

応募者 宮城県大河原地方振興事務所

清水建設株式会社

選考理由

本作品は桜の名所における新たなランドマークとして建設された P R C 4 径間連続箱桁橋である。P 2 橋脚を中心とするシンメトリーで桁高の低い形状や高欄の配色など、周辺景観に配慮した設計であり、また施工中も主桁の変形量やコンクリートのひび割れ、橋面の耐久性等に様々な対策を講じている。

以上の景観面への配慮や技術的な特徴から、本応募グループに J C I 東北支部東北支部作品賞を授与いたします。

【作品賞】②

題名 JR東日本磐越東線夏井・小野新町間夏井谷津作橋りょう
(品質向上に配慮した配筋図に基づき製作した橋りょう)

応募者 東日本旅客鉄道会社 東北工事事務所

選考理由

本作品はPRCランガー桁橋の建設に当たり、過密鉄筋によるコンクリートの打設不良を防止するため、設計段階より施工性に配慮した配筋図を作成していることが特徴である。その結果締固め作業が十分行うことができるなどコンクリート打設が容易となり、構造物の品質を確保することができた。さらに現在線の架け替え工事のため非常に短い施工時間内に桁横取り架設を行う必要があり、綿密な計画のもとに工事が進められた。施工の詳細を考慮して設計を行ったこのような取り組みは、今後増えると予想される難工事の参考になるところも多いものと思われる。

以上のことから、本応募グループにJ C I東北支部作品賞を授与いたします。

【特別賞】

題名 「コンクリート構造物のLCC評価研究委員会」

選考理由

高度経済成長期に建設された橋梁の一斉老朽化が今後の社会の大きな問題として取り上げられ、橋梁長寿命化の計画が各自治体で検討され始めているものの、各種の問題がありいまだ実効ある対応がなされていないのが現状である。本委員会は、東北地方におけるコンクリート構造物の耐久性評価に関して3年半の長きにわたり精力的な活動を行い、長寿命化計画策定に際しての各種課題を浮き彫りにするとともに、その基礎ともなるべきLCC評価に関し、工学的根拠に伴う手法を提示した。さらに、本活動で得られた結果を広く普及するため東北6県の主要都市において講習会を開催している。本委員会の活動の成果は、我が国のコンクリート構造物のLCC評価技術の発展ひいては東北地方の構造物の長寿命化に大きく貢献するものである。

以上のことから本委員会の活動に対して、J C I東北支部の特別賞を授与いたします。

(3) 研修委員会

第8回『コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会』の企画立案及び開催を下記の通り実施した。

項目	説明
開催日時	平成24年10月11日(木) 11:10~17:15
場所・内容	開催場所：秋田市民交流プラザ(ALVE) 多目的ホール 内容：補修材料・補修工法について 特別講演1「秋田県におけるコンクリート劣化の状況」 特別講演2「東日本大震災で被災した新幹線構造物の復旧」 補修製品・工法の説明
参加者	受講者46名、補修製品・工法の説明9社
その他	・土木学会CPD登録(CPD受講証明書発行) ・講演要旨集を作成(印刷)、配布 ・勉強会后、講師・参加者を交えて懇親会を開催

第8回 コンクリート診断士勉強会についてのアンケート集計結果

2012.11.2

1. 勉強会全体について

回答数:33

1)集計結果

良かった	まあまあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	計
18(55%)	11(33%)	3(9%)	1(3%)	0	33

2)理由・要望

評価	理由	要望
良	①いろいろ勉強になった【類似意見:計20件】	①技術の進展や新しい知見を取り入れて貰いたい【類似意見:計2件】
	②良く理解できた【類似意見:計2件】	②成功例、失敗例を取りあげて欲しい
	③資料が充実していた	③各種工法の代表的現場の見学
	④診断士同士の交流もあって良かった	④建築関係の劣化問題を取りあげて欲しい
	⑤時間通りの発表で良かった	⑤工法の実績や施工後の経過状況を知りたい
	⑥秋田県での開催に感謝	⑥劣化現場(アル骨、塩害等)の見学
	⑦新幹線の復旧の講演が有意義だった	⑦県内の土木技術の歴史
	⑧新しい技術・工法・製品を知ることができよかった【類似意見:計3件】	⑧補修・補強工法の施工事例の発表
	⑨徳重先生の講演が良かった【類似意見:計3件】	⑨現場で実際に調査をする勉強法【類似意見:計2件】
		⑩調査の手法、非破壊、微破壊試験について
普通・否	①テーマの統一性に疑問	⑪補修作業等ができるような内容
	②説明者の力量により、理解が大きく変わった	⑫年2回の開催
	③商品説明が多く、アカデミックな内容が少ない	⑬診断事例を入れて欲しい
	④各講演の時間が短い、足りない	
	⑤もっとポイントを絞った内容に	
	⑥終了1分前にベルのカウントがあれば良かった	

(4) 講習会運営委員会

1) 講習会・試験

講習会・試験の事務運営は、コンクリート診断士試験についてはJCI支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い、コンクリート技士試験は生コン工業組合主体で実施した。

平成24年度 講習会試験実施 (JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート 診断士講習会	4月12日(木) 4月13日(金)	仙台国際センター	統括：石川雅美 (2年目)	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営
コンクリート 診断士試験	7月22日(日)	東北工業大学 (506名受験)		責任者：田中雄一 補佐：眞山芳恵

*次期統括予定者 武田三弘

平成24年度 講習会試験実施 (JCI 本部管轄)

コンクリート 技士試験・コン クリート 主任技士試験	11月25日(日)	東北学院大学 (技士923名 主任技士354名)	統括：西脇智哉 (1年目) 副統括：北辻政文 (1年目)	生コン工組運営 責任者：田中雄一 補佐：眞山芳恵
-------------------------------------	-----------	--------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------

2) 月刊誌「コンクリート工学」への執筆推薦

編集担当(岩手大：小山田先生)からの依頼により、以下の執筆者(担当者)の推薦を行った。

- ・「技士のページ(2012.12月号)」東北支部で4名執筆の内、3名の推薦を依頼される
 - 金子幸仁：仙台生コンクリート(株) 本社工場 コンクリート技士
 - 渡邊賢治：宮城県生コンクリート中央技術センター コンクリート主任技士
 - 渡邊 源：郡山生コン日和田(株) コンクリート主任技士
- ・「診断士のページ(2013.2月号)」東北支部で4名執筆の内、3名の推薦を依頼される
 - 鈴木秀寿：(株)復建技術コンサルタント
 - 米野泰広：ショーボンド建設(株) 山形営業所
 - 三浦 稔：ヒラカワ土地
- ・「我が職場(2013.3月号)」東北支部で2名執筆の内、1名の推薦を依頼される
 - 高橋秀紀：(株)テクノ東北 第一技術部保全グループ

*別途、2013.4月号「TOPICS」で取り上げる「東北地方のコンクリート構造物の推薦」の協力依頼もあった。

(5) ホームページ運用委員会

6月と12月の年2回定期的にHP全体のチェックを行うとともに、適宜最新の情報をホームページにアップロードしている。

URL：http://www.jci-net.or.jp/~branchi_tohoku/index.html

3. 収支決算報告

JCI東北支部 平成24年度 収支決算報告書
(自平成24年 4月1日 ~ 至平成25年 3月31日)

(1) 収入の部 (円)

項目	予算額(A)	決算額(B)	増減(A-B)	摘要
H23年度からの繰越金	745,919	745,919	0	
交付金	1,500,000	1,537,600	-37,600	正会員 421人 学生会員 23人 団体会員 22社
講演会等収益	0	1,901,340	-1,901,340	コンクリート構造物の劣化予測とLCC評価講習会
研修委員会事業	0	255,000	-255,000	コンクリート診断士の技術研鑽勉強会
本部業務援助報酬	120,000	602,000	-482,000	コンクリート診断士講習会業務援助
懇親会参加費収益	0	84,000	-84,000	総会懇親会参加費
雑収入	0	29,925	-29,925	
利子	200	253	-53	
合計	2,366,119	(ア) 5,156,037	-2,789,918	

(2) 支出の部 (円)

大科目	中科目	予算額(A)	決算額(B)	増減(A-B)	摘要
事業費	専門研究委員会	200,000	0	200,000	
	講演会等事業1	200,000	1,793,873	-1,593,873	コンクリート構造物の劣化予測とLCC評価講習会
	講演会等事業2	0	498,750	-498,750	合同調査委員会報告書
	研修委員会事業	300,000	451,152	-151,152	コンクリート診断士の技術研鑽勉強会
	表彰事業	100,000	114,083	-14,083	
	本部業務援助		481,600	-481,600	コンクリート診断士講習会業務援助
	小計		800,000	3,339,458	-2,539,458
管理費	総会費	400,000	440,564	-40,564	
	役員会費	100,000	35,110	64,890	幹事会・役員会
	表彰委員会費	100,000	0	100,000	
	講習会運営委員会	100,000	0	100,000	
	旅費交通費	300,000	262,120	37,880	
	通信費	5,000	7,632	-2,632	
	慶弔見舞い金	0	0	0	
	事務委託費	500,000	500,000	0	
	雑費	5,000	3,150	1,850	振込み手数料・雑費
	小計		1,510,000	1,248,576	261,424
予備費		56,119		56,119	
合計		2,366,119	(イ) 4,588,034	-2,221,915	

(3) 決算の部 (円)

項目	金額(円)	摘要
収入	5,156,037	(ア) 収入合計
支出	4,588,034	(イ) 支出合計
平成25年度への繰越金	568,003	

【会計監査報告】

平成25年 4月23日 監査を致しました結果、その収支は厳正かつ妥当であると認めます。

会計監査

伊神 光 男

松川 欣 司



第2号議案 平成25年度 日本コンクリート工学会東北支部事業計画(案)
(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

1. 会務運営

(1) 総会

・平成25年5月14日 14:00~19:00 於:江陽グランドホテル

(2) 支部幹事会

・4回開催予定

(3) 支部役員会

・2回開催予定

(4) 研究委員会

・随時電子会議により開催

(5) 表彰委員会

・随時電子会議により開催

(6) 講習会運営委員会

・随時電子会議により開催

(7) 研修委員会

・随時電子会議により開催

(8) ホームページ運用委員会

・随時電子会議により開催

2. コンクリートに関する調査・研究

(1) 研究委員会

会告およびホームページにおいて、研究課題を公募する。

(2) 表彰委員会

日本コンクリート工学会東北支部表彰規約(内規)に基づき、論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。

(3) 研修委員会

第9回『コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会』の開催を検討する。

・ワーキンググループの開催

未 定

(4) 講習会運営委員会

講習会・試験の事務運営は、コンクリート診断士試験については JCI 支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い、コンクリート技士関連は生コン工業組合にお願いする。また、月刊誌「コンクリート工学」への執筆推薦に協力する。

平成 25 年度 講習会試験実施予定 (JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート 診断士講習会	4月10日(水) 4月11日(木)	仙台国際センター (申込み334名)	統括：武田三弘 (1年目)	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運 営
コンクリート 診断士試験	7月21日(日)	東北工業大学		責任者：田中雄一 補佐：眞山芳恵

*次期統括予定者 未定

平成 25 年度 講習会試験実施予定 (JCI 本部管轄)

コンクリート 技士試験・コン クリート 主任技士試験	11月24日(日)	東北学院大学 (土樋キャンパ ス)	統 括：西脇智哉 (2年目) 副統括：北辻政文 (2年目)	生コン工組運営 責任者：田中雄一 補佐：眞山芳恵
-------------------------------------	-----------	-------------------------	--	--------------------------------

(5) ホームページ運用委員会

会員・非会員向けの支部活動の情報を発信するため、講習会・各種試験・勉強会などの情報について随時ホームページに掲載を行う。各研究委員会と連携し、研究委員会ごとのHPにおいて情報発信を行う。

情報が古いままとならないように、6月と12月に重点的にホームページの更新を行うものとする。

3. 平成25年度 収支予算(案)

(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(1) 収入の部

項目	予算額	昨年度予算	昨年度決算	予算増減	
繰越金	568,003	745,919	745,919	-177,916	
交付金	1,500,000	1,500,000	1,537,600	0	
講演会等収益	0	0	1,901,340	0	
研修委員会事業	100,000	0	255,000	100,000	コンクリート診断士の技術研鑽勉強会
本部業務援助報酬	600,000	120,000	602,000	600,000	コンクリート診断士講習会業務援助
懇親会参加費収益	90,000	0	84,000	90,000	
雑収入	0	0	29,925	0	
利子	200	200	253	200	
合計	2,858,203	2,366,119	5,156,037	492,084	

(2) 支出の部

大科目	中科目	予算額	昨年度予算	昨年度決算	予算増減	摘要
事業費	専門研究委員会	200,000	200,000	0	0	
	講演会等事業	200,000	200,000	2,292,623	0	
	研修委員会事業	300,000	300,000	451,152	0	コンクリート診断士の技術研鑽勉強会
	表彰事業	100,000	100,000	114,083	0	
	本部業務援助	480,000	0	481,600	480,000	コンクリート診断士講習会業務援助
	小計	1,280,000	800,000	3,339,458		
管理費	総会費	400,000	400,000	440,564	0	
	役員会費	100,000	100,000	35,110	0	
	表彰委員会費	100,000	100,000	0	0	
	講習会運営委員会	100,000	100,000	0	0	
	旅費交通費	300,000	300,000	262,120	0	
	通信費	5,000	5,000	7,632	0	
	慶弔見舞い金	0	0	0	0	
	事務委託費	500,000	500,000	500,000	0	
	雑費	5,000	5,000	3,150	0	
		小計	1,510,000	1,510,000	1,248,576	
予備費		68,203	56,119		12,084	
	合計	2,858,203	2,366,119	4,588,034	492,084	

平成 25・26 年度 J C I 東北支部 幹事会・役員会（案）

氏名	勤務先
支部長	
※ 遠藤 孝夫	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
幹事長	
※ 前田 匡樹	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 教授
幹事	
※ 阿部 浩彰	鹿島建設(株) 東北支店
	石川 雅美 東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
	岩城 一郎 日本大学 工学部 土木工学科 教授
	大沼 正昭 東北工業大学 工学部 建築学科 教授
	加賀谷 誠 秋田大学大学院工学資源学研究所 土木環境工学専攻 教授
	奈良 裕 青森県コンクリート診断士会
	久田 真 東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
	細川 清志 宮城県生コンクリート工業組合
	森 吉尚 国土交通省東北地方整備局 企画部長
	万木 正弘 弘前大学 農学生命科学部 地域環境工学科 非常勤講師
常任委員	
	阿波 稔 八戸工業大学 工学部 土木建築工学科 教授
	磯上 秀一 福島県生コンクリート工業組合
	市川 成勝 オリエンタル白石(株)東北支店 施工・技術部
	宇賀神 尊信 岩手県生コンクリート工業組合
	遠藤 敏雄 (株) 復建技術コンサルタント
	折原 清告 山形県生コンクリート工業組合
	北辻 政文 宮城大学食産業学部環境システム学科 教授
	小出 英夫 東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科 教授
交	近藤 克巳 清水建設(株) 東北支店 土木技術部
	澤田 貞悦 J R 東日本コンサルタンツ(株)東北支店
	高橋 学 東北電力(株)土木建築部
	武田 三弘 東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
	西脇 智哉 東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 准教授
	橋本 幸一 秋田県生コンクリート工業組合技術研修センター
	羽原 俊祐 岩手大学 工学部 社会環境工学科 教授
	松村 光太郎 宮城学院女子大学 学芸学部 生活文化デザイン学科 准教授
	三上 重道 青森県生コンクリート工業組合
	緑川 猛彦 福島工業高等専門学校 建設環境工学科 教授
	山田 金喜 東日本高速道路株式会社 東北支社 技術部
支部監査	
交	伊神 光男 太平洋セメント(株)東北支店
	松川 欣司 BASF ポゾリス株式会社
本部理事	
※	加賀谷 誠 秋田大学大学院工学資源学研究所 土木環境工学専攻 教授
顧問	
	井上 範夫 東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 教授
	大塚 浩司 東北学院大学工学部特別教授（学校法人東北学院 理事）
	鈴木 基行 東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
	田中 礼治 東北工業大学 工学部建築学科 教授
	三浦 尚 東北大学名誉教授
	三橋 博三 東北工業大学建築学科
	鈴木 基行 東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
	月永 洋一 八戸工業大学工学部土木建築工学科 教授
事務局	
	飯土井 剛 (株) 復建技術コンサルタント 保全 1 部
	鈴木 秀寿 (株) 復建技術コンサルタント 保全 1 部
	金 貴之 (株) 復建技術コンサルタント 総務人事部

※：役割変更 新：新役員 交：前任者より交代

平成 25・26 年度 J C I 東北支部 専門委員会 (案)

平成25年 5月14日より

専門委員会	研究委員会	研修委員会	表彰委員会
委員長	石川 雅美	久田 真	万木 正弘
副委員長		奈良 裕	
委員	阿波 稔	細川 清志	奈良 裕
	松村 光太郎	宇賀神 尊信	岩城 一郎
		磯上 秀一	近藤 克巳
		橋本 幸一	西脇 智哉
		折原 清告	羽原 俊祐
		交 近藤 克巳	緑川 猛彦
		伊神 光男	
		阿波 稔	

専門委員会	講習会運営委員会	HP運用委員会	
委員長	小出 英夫	岩城 一郎	
副委員長	細川 清志		
委員	北辻 政文	金 貴之	
	石川 雅美	皆川 浩	
	松村 光太郎	内藤 英樹	
	武田 三弘		